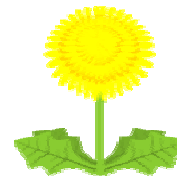


このたびの東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに一日も早く復興されますことを心よりお祈りいたします。

税理士FPメルマガ通信

第124号

平成23年 5月 16日発行
編集: 税理士FP実務研究会事務局
税理士FPビジネスサービス 総合企画部
東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルクワ-29階



今後の資産形成をどう考えるか その2

多くの方がリタイア後の生活に不安を持っています。セカンドライフは、基本的には、仕事をやめた時に手元にあるお金と公的年金で賄っていくことになります。老齢基礎年金の1年分の受給額を19,800円として、加入年数をかければ、大体の年間受給額を計算することができます。例えば、25年加入していれば、 $19,800 \times 25 = 495,000$ 円。月額41,250円という風に計算してみてください。

先日発表された、厚生労働省の「老齢年金都道府県別受給者数及び平均年金月額」によると、年金月額の平均は、**老齢基礎年金が、約5万4千円、厚生年金の平均年金月額は約15万7千円(基礎年金を含む)**でした(2009年度末現在)。

一方、支出の方はといいますと、世帯主60歳以上の無職世帯で、月平均で約28万円(総務省統計局「家庭調査」H21年度より)。60歳の平均余命は、男性23年、女性28年ですので、1億円近くの資金が必要ということになります。年功序列で給与も右肩上がり、円の預貯金中心に運用していれば老後も安泰だった時代が終わってしまった今、更に財政が非常に悪化している中で、私たちの老後はどうなるのでしょうか。収入の増えない中での税金や社会保険料の大幅な引き上げは、手取りの減少に直結します。やはり生活を守るには、株式や外貨などのリスク資産への投資である程度の利回りでお金を増やしていくしかないようです。でも、やみくもな投資は、お金を増やすどころか減らすことに繋がりがねません。ある程度マネー知識が必要不可欠、もっといえば、マネー知識の有無が人生を左右する時代だと言えるのではないのでしょうか。

投資の基本は長期で国際分散

わたしは、運用のご相談を受けた時、基本的には、「日本株式」「海外株式」「日本債券」「海外債券」の4つに資産を分散し、更に購入時期も時間分散し、複利の効果も狙って長期で運用するというスタンスをおすすめしています。投資は余裕資金でといわれますが、余裕資金があまりなくて、でも将来が不安で、1日でも早く投資を始めたいという方にも、月々、数万円ずつ積立投資をしていく方法なら手軽に始めることができます。どのような資産配分にしていくかというのは、どのくらい自分がリスクを取れるかということで、人それぞれだと思いますので、少しずつ、自身に最適なポートフォリオを作って行けばいいと思います。大きな資金を一度に動かすのではなく、時期をずらして少しずつ買っていき、購入金額を決めておき、定期的に買っていき手法を「ドル・コスト平均法」といいます。

ドル・コスト平均法の威力とは

ドル・コスト平均法は、運用の世界では有名な方法なのでご存じの方も多いと思いますが、この方法は長期的な投資にとっても向いています。値段の変動のあるものを毎月同じ金額ずつ購入していくと、高い時は少ない量を買ひ、安い時には多くの量を買うことになるので、一定の量を継続して購入する場合と比べて、購入口数が多くなって、結果として平均単価を引き下げられることになるというわけです。わたしが、よくお勧めするのは、分散投資ができる投資信託をつかった長期積立投資です。便宜的に1口1ドルの投信を毎年1000口ずつ10年間購入するとして考えてみましょう。

投資元本は、10000ドルですよ。例えば、ファンドAは、1ドルからどんどん上がって行き、4年目に2ドルに、10年目に3ドルになったとします。最終的に買った口数は、口数は4984口でした。一方、ファンドBは、1ドルからどんどん下がり、4年目0.4ドル、6年目0.2ドル、10年目にやっと1ドルに戻ったとします。4年目2500口、6年目5000口が買えて、最終的に22666口が買えました。

ファンド

A

	1年目	……	4年目	……	10年目
価格	1ドル	……	2ドル	……	3ドル
買った口数	1,000口	……	500口	……	333口

$$\text{価格} \quad \text{最終的に買った口数} \quad \text{価値}$$

$$3 \text{ドル} \times 4,984 \text{口} = 14,952 \text{ドル}$$

ファンド

B

	1年目	……	4年目	……	6年目	……	10年目
価格	1ドル	……	0.4ドル	……	0.2ドル	……	1ドル
買った口数	1,000口	……	2,500口	……	5,000口	……	1,000口

$$\text{価格} \quad \text{最終的に買った口数} \quad \text{価値}$$

$$1 \text{ドル} \times 22,666 \text{口} = 22,666 \text{ドル}$$

投資信託の価値は、いつどんな時でも 価格×口数で出せます。ファンドAは、最終的に3ドル×4984口で、14952ドル。ファンドBは、22666ドルです。下がっていく時に投資をしても、投資を長く続けることで、結果として保有する口数を稼ぐことができるので、それが結局リターンに貢献するというわけです。ドル・コスト平均法は、長期的に見れば、株価の下落をチャンスに変えられる優れた手法といえるのではないのでしょうか。ただし、その後、株価が上向けばという条件付きです。

1995年を機に世界の株式市場は変わったと言われます。世界経済はより一体化してより高密度で、運命共同体になっています。今後も価格変動が大きくありながら株式市場は成長していくでしょう。ということはそれだけ積立投資の有効性が高まるということではないのでしょうか。なぜなら積立投資はマーケットの価格が下がる局面があったほうがより儲かるから。なぜ儲かるのか。同じ1000ドルの投資でより多くの口数が稼げるからです。今後、株価が一本調子で上がり続けるなんてことは考えにくいことです。つまり、長期積立投資は、今後の株式市場のトレンドに一番合った投資法のひとつといえるのではないのでしょうか。

著者プロフィール

岩城 みずほ 氏

オフィスベネフィット代表。CFPR DCプランナー

慶應義塾大学卒。NHK松山放送局を経て、フリーアナウンサーとして14年活動。

報道番組、パブリシティ番組、選挙特番などの他、BS、ラジオ、各種司会、リポーターを務める。

その後、金融機関の企業研修講師を経て、2009年にFP資格を取得。得意分野は保険と資産運用。

コンサルティング、セミナー講師、執筆、司会などを行っている。

オフィスベネフィット <http://www.officebenefit.com/>

ほけんぺでいあ <http://www.hokenpedia.com/>

somerise project japan <http://somerise.net/>

火曜ブログ 「わたしのほけんABC」金曜ブログ「わたしの資産形成ABC」

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【株日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488